

2013年

## 春の課題作文優秀作品【小学部】

S・Sさん（柿生小）

私は、日常生活の中での言葉の使い方は、意見Aの「書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべきだ」がいいと思いました。

意見Aがいいと思った理由は、正しく話をしないと自分が伝えたいことが相手にうまく伝わらないと思ったからです。意見Bや意見Cのように、話し言葉では細かいことは気にしなくていいという考えは友達と話をするときはいいけれど、大勢の人の前などで話すときはいいねいな言葉で話をするので、よくないと思います。

私が日直でスピーチをしたときに、話の内容がよく伝わらなくて、質問がたぐさんきてしまったことがあります。また、先生から「仲間に自分を信じてもらうのは難しいが、信じられなくなってしまうのはいっしょのことで」という話も聞いたことがあります。そのとき私は、一つ一つの言葉の使い方が大切だと思いました。そして、話し言葉は正しく使った方がいいと思いました。

四年生のときのクラスでは、週一日記を書いていました。その週にあったことをくわしく、いつ、どこで、どんなふうにして、どう思ったか、何をしたらか書いていました。それは、私が二年生の時に書いていた日記が、どう思ったかしか書いていなくて、先生から「もっと細かく、相手に伝わるように書くこと」と言われたからです。なので、書き言葉は、詳しく相手に伝わるように書くことが大切だと思いました。

よって、私は「書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべきだ」の意見Aがいいと思いました。

I・Rさん（すみれが丘小）

私は意見Cに賛成です。理由は三つあります。

まず、友達と話しているときに「くだよね。」や「くじゃん。」などを使っているときがあります。これらは話し言葉です。正しい使い方ではありませんが、特に問題はありません。しかし、それをそのまま文に書いてみると、読む人にとっては不愉快な気持ちになるかと思います。

次に、話し言葉の中では、男性語・女性語・方言等多くの話し言葉があります。これらは、独特な表現の仕方や発音や言い回しがあり、表現する対象物への考え方で言葉使いが違います。例えば、女性を見たとき、知り合いなら「おばさん」「おばあさん」と普通は呼びますが、「おばん」「ばあさん」等という人もいます。それはそれで通じますが、これを文章にしたとき落ち着かなく感じます。また、書かれた人も気分を害することがあります。

最後に、友達と昨年映画を見に行く約束をしたことです。「○日に『△△』を□□で行こうよ。午前中がいいよね。どこに集まるうか。」「私の家の前はどうか？」とお互いに話し合いながら、都合のいいように決めました。「じゃあ△△ちゃんも誘おうよ。でも、今留守か。」「メモしてポストに入れておこうよ。」メモには、「○日に□□で△△という映画を○と△と□と見に行きます。午前の放映ですので九時に井上琉奈の家の前に集合です。チケット代千円と昼食代を持って来てください。」と、いいねいに細かく書き込みました。相手は直接私に質問できないので、その日の状態を全部分かるように伝える必要があるからです。

このように話し言葉は、その場で疑問点・問題点を修正できますが、文章では相手に正しい情報を伝えるために細かく書く必要があると思います。

## 春の課題作文優秀作品【中学部】

T・Mさん（中川中）

私は、話し言葉よりも書き言葉を整えて使うべきだと思う。なぜなら、話し言葉と書き言葉の最も違う点は「重さ」だと思うからだ。私は、言葉は本来重くなければいけないものだと思う。

話し言葉は、言葉を口から出した瞬間すぐに消えてなくなるため、書き言葉に比べて安易にものを言うことができるので、言葉本来の重さが出ないと思う。しかし、書き言葉は紙などに残るため、話し言葉に比べると言葉本来の重さが出ると思う。

私の祖父の話によると、そもそも言葉というものは、その昔「言の葉」と言ったそうだ。木にとつて葉の部分は、風や空気を一番感じるところだかららしい。たしかに、木全体の中で風や季節の変わり目によって一番変化を見せるのは、葉の部分だ。このことにより、私は人間も木も同じで、言葉はその人のセンスや性格が一番出やすい部分だと思うのだ。

実際、短歌や詩の世界では「言の葉」と言ったのだそうだ。たしかに、有名な短歌や詩は書き言葉なので、重さがあるから人の心を打つのだろう。だから、有名な詩人達は、いろいろな経験をして、葉のように感情を表すことが豊かだったのだ、あのような心に響く言葉を選び、素晴らしい詩が書けたのだ。

話し言葉は、その時話す人の感情によって左右されるため、本来の自分が出ない可能性がある。つまり、本来の言葉の重さが出ない場合がある。だから、きつとその時下品な言葉使いをしたら、本来の自分は真面目なのに下品な人になってしまう時もあるだろう。

そういう意味があるから、私は本来の自分が出やすい「書き言葉」を慎重に使うべきだと思う。

T・Kくん（十日市場中）

「おい、田畑なんだその口のきき方は。」と先生に言われて正直私は何故怒られているのが分からなかった。私は先生にCDを返し忘れていて、遊んでいる時呼び止められた時にとっさに「じゃあ、返します。」と答えてしまった。今考えると「すみません、すぐに返します。」と答えるべきだったと思う。書き言葉であれば、その時の私でも「じゃあ」という接続詞はおかしい事、相手にとっては横柄にとられる事が分かる。

私の考えは意見Aの書き言葉も話し言葉も、正しく整えて使うべきだ。という意見に賛成だ。付け加えて言うならば、書き言葉は消しゴムで消し直せるが、一度言ってしまった言葉は取り消す事ができない。

また、普段使い慣れない言葉はとっさの言動では出てこないのだ。だから、書き言葉も大切だが、それ以上に話し言葉は正しく扱わなければならないのだ。よくテレビで政治家が失言や暴言についての謝罪をしている事を目にする。大人も正しく言葉を使う事に気を付けていけば、世の中で傷つく人や、争い事も減らす事ができると思う。

“覆水盆に返らず”ということわざがある。一度してしまった事は取り返しがつかない。相手の事も、自分の事も、大切に思うのならば、書き言葉も話し言葉も、正しく整えて使っていきたい。

N・Hさん（荏田南中）

意見Aの書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべきだとあるが、そこまで大層なものでもなければ、それが広く唱えられているものなのかも私は知らないし、知ろうとも思わない。ただ私の一個人としての意見であり、強要するつもりも更々ない。そこを考慮して呼んでほしい。

「正しい」という表現が適切かどうかは分からないが、私自身、他人にも

を伝える際は口語的な表現は避けている。それは言葉に於いての基本的な機能が失われない為だ。これは所謂若者言葉に対する対処法だろう。最近の度が過ぎた若者言葉は最早外国語である。正しく使えという意味ではなく、この意見の根本はそういったところにある。

また、言葉が乱れることよって起こるもう一つの問題は、本来の日本語のうちの尊敬語が分からなくなることだ。これは実際に、私自身も体験したことだが、最近気になっている人も多いのではないだろうか。レストランの店員の言葉遣いだ。

「くのほう」「え？もう一つあるんですか？」

「くになります」「え？現時点では違うものなんですか？」

このことについては特に説明はいらないだろう。

尊敬語、特に謙譲語、これらを俗世間的な言い方で「正しく」使えないのは問題だ。人から何かをもらうときに使う「いただく」という言葉。実際によく見かける間違いだが、これをまた「どうぞいただいて下さい」などと使えば。客側としてもいい気はしないだろう。このように、「正しく」尊敬語を使えていないと、実際に小さな摩擦や害が及ぶこともあるのだ。

右記が大まかな理由である。前者はかなり基本的な問題にしても、後者は特に、現実的に問題だろう。本来の言葉の意図を見失わないためにも、エゴイズム染みた話ではあるが、少しずつ意識の修正が必要だと私は思う。